

主体的に説明文の構造を読み取り，図鑑づくりに生かす子どもの育成

～1年生「じどう車ずかんをつくろう」の実践から～

長岡市立上川西小学校

教諭 樋口 大輔

1 目指す子ども像

平成27年度までの，県小教研学習指導改善調査【結果分析】から，読解力に関連して，つぎのような課題があることが分かった。

- ①資料を読み取る力 … 資料から必要な情報を取り出し，適切な内容で文章を書き抜く力や，資料から読み取ったことを考察する力。
- ②内容に応じて資料を分類する力 … 分類したグループに適切な見出しを付ける力。
- ③資料を解釈する力 … 資料そのものを読み取り，吟味したり，自分の意見と関係づけたりして，考察する力。

これらの課題は，当校の児童にも当てはまる。学習の大切なスタート位置である1年生から，これらの課題を乗り越える力を育てていくことが大切である。

そこで，学習指導改善調査も踏まえた考える力をもつ子どもとして，目指す子ども像を設定し，実践を行った。

目指す子ども：主体的に説明文の構造を読み取り，図鑑づくりに生かす子ども

2 実践の概要

(1) 単元名「じどう車ずかんをつくろう」

(2) ねらい

それぞれの自動車の仕事とつくりを比べながら読む活動を通して，説明文の構造を理解し，それを生かして自動車図鑑を作ることができる。

(3) 目指す子ども像に迫るための手立て

①子どもが見通しをもち主体的に学ぶための単元を貫く言語活動の設定

主教材「じどう車くらべ」（光村図書 こくご1下）は，自動車の「仕事」と「そのためのつくり」を述べるという構造をもつ。「はじめ」「なか」「まとめ」のうち，「まとめ」に該当する部分がないため，続きを考えることができるという特徴もある。

そこで，本単元では，単元の終末に「自分の自動車図鑑を作る」というゴールを設定し，そこへ向かって主教材の読み取りを行う言語活動を設定する。このことにより，目的意識をもって文章を読み取り，図鑑作りに必要な事柄を理解する子どもの姿が期待できる。

②文章の構造に気付くための教材文の提示の仕方の工夫

学習活動と教材の特性上，それぞれの自動車の説明を比べ読みすることで，文章の構造が「仕事」「そのために」「つくり」になっていることに気付くことができると考える。

そこで、教材全文を提示する読みの学習「フレームリーディング」を行う。文章全体を比べながら読み、自動車の説明の仕方で似ているところと違うところを探すことで、文章の構造に気付く子どもの姿が期待できる。

③読み取った構造を生かして図鑑を書くまとめの活動の設定

単元の構造上、子どもたちは、毎時間自動車の「仕事」と「そのためのつくり」を読み取り、理解することができる。そこで、1時間のまとめに自動車の「図鑑カード」を用いて、読み取った自動車の図鑑を書くまとめの活動を設定する。このことにより、毎時間の積み重ねの意識をもちながら、読み取った構造を生かして図鑑のページを増やす子どもの姿が期待できる。

(4)指導計画（全9時間）

- 1次 言葉の意味を調べる。（1時間）
学習計画を立てる。（1時間）
- 2次 「バスと乗用車」「トラック」「クレーン車」の説明文を読み取る。（3時間）
- 3次 「はしご車」の説明文を考え、図鑑カードを作る。（2時間）
自分で選んだ自動車の説明文を考え、図鑑カードを作る。（2時間）

(5)評価

子どもが作った自動車図鑑とノートの記述から、「仕事」「そのためのつくり」の文章構造をとらえて読むことができたかを見取る。

3 指導の実際

(1)単元を貫く言語活動の設定により、見通しをもって主体的に学ぶ子ども

単元の導入時、校区でよく見られる自動車の写真を見せ、子どもたちが学習内容について話し合う活動を設定した。当校の校区には、鉄工団地があるため、重機をはじめ様々な自動車を目にすることができるという魅力がある。（写真1）



写真1 校区で見られる重機

話し合いを通じて「上川西で働くかっこいい自動車を調べたい。」「じどう車くらべに出てくる自動車のことも知りたい。」と意欲が高まったと見取り、自動車図鑑づくりの活動と、そのための読みの学習を子どもたちに提案した。主教材「じどう車くらべ」をヒントに、説明文の書き方を学べば図鑑ができそうだと見通しをもち、毎時間の学習では、「(自動車の名前)は、どんな仕事とつくりなのか」を追求課題として学ぶ子どもたちの姿が見られた。

(2)教材文の提示を工夫することにより、文章の構造に気付く子ども

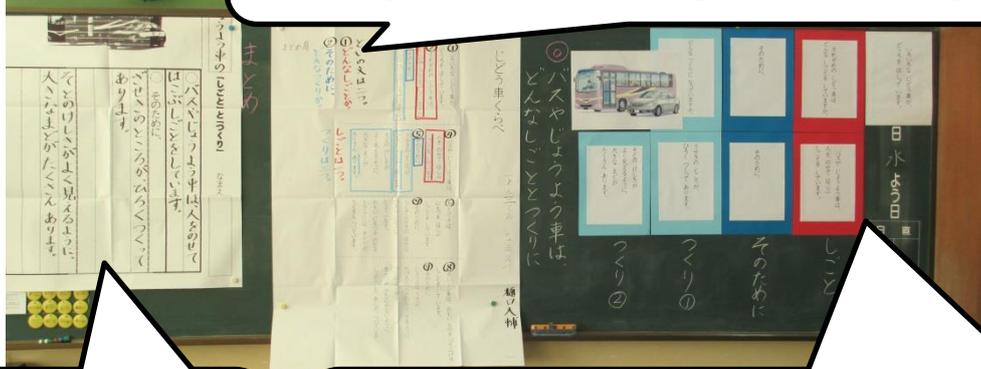
フレームリーディングで読みの学習を進めることにより、子どもたちは、それぞれの文章を比べて読み、文章の構造がどれも「仕事」「そのためのつくり」になっていることを理解することができた。（写真2は2次3時間目の板書である）教材文をばらばらにして提示したときも、学習したことを手がかりに「仕事」「そのために」「つ

くり」の順番で正しく並べ替えることができた。

中には、既習の教材「くちばし」「海のかくれんぼ」と似ている点として「問いの文と答えの文が必ずある」ことに気付き、仲間に伝えた子どももいた。

写真2

2次3時間目の板書



フレームリーディングに用いた教材文。

子どもたちは、次のような約束で、文章を色つきの線で囲んだ。

「仕事」…赤色 「そのために」…青色 「つくり」…「水色」

まとめに用いた図鑑カード

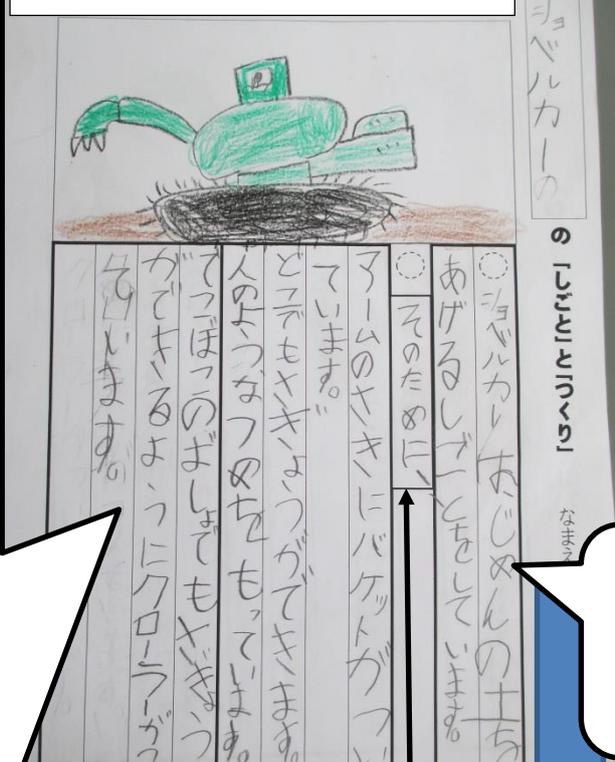
「仕事」「そのために」「つくり2つ」の4か所に分けてある。

1つの自動車についての説明文を「仕事」「そのために」「つくり」に分けて並べ替えカードにしたもの。

色画用紙に貼ってあり、色はそれぞれ上記の約束と同じである。

(3)まとめで、読み取った構造を生かして図鑑を書く子ども

写真3 子どもが作った自動車図鑑



言葉で詳しくしながら、どんなつくりになっているかを伝える書き方になっている。「つくり」の枠

「つくり」は2つ紹介されている。「○○するようになつて」という

1時間の学習のまとめでは、読み取った説明文の構造を生かして、図鑑カードを作った。

2次までは、読み取った文章を書きぬきながら図鑑を作り、3次では、自動車のビデオや本を見て調べながら、図鑑に載せる説明文の内容を子どもが考えた。

子どもたちは、様々な自動車の説明文を比べ読みし、「仕事」と「つくり」それぞれの書き方にも共通点があることに気付き、自分の自動車図鑑に生かす姿が見られた。

(写真3)

「仕事」の文を書く枠

「(自動車の名前)は、○○という仕事をしています。」という書き方になっている。

「そのために」の枠

はじめに自動車の名前と仕事を紹介し、「そのために、」という言葉で「つくり」の文とつなぐ書き方になっている。

4 成果と課題

(1)成果

単元後、図鑑を作った子どものノートには次のような振り返りがあった。

ぼくは、このおべんきょうで、じどう車ずかんをつくれてうれしかったです。とてもたいへんだったけど、「じどう車くらべ」の「しごと」と「そのために」「つくり」がヒントになったので、じぶんでじどう車ずかんをつくることができました。あと、じどう車にはいろいろなしごとがあるんだなということをしりました。

このことから、講じた手だてが有効に働き、子どもが説明文の構造をとらえることができたと考えられる。地域で働く自動車を生かして紹介するという活動の設定も、子どもの関心・意欲を高める上で効果的だったといえる。

(2)課題

本単元では、構造を中心に読みの活動を展開した。その結果、27人中27人全員が説明文の構造を生かして自動車図鑑を作ることができた。

一方、自分が選んだ自動車の説明文を書く段階で、「〇〇するように、～があります。」「〇〇するために、～がついています。」のように、「つくり」の書き方を生かして書くことができた子どもは27人中18人であった。説明文で述べられている事柄の順序「仕事」「そのためのつくり」については2次までに十分理解していたものの、内容理解については十分でなかったことが分かる。読み取りを行う際、子どもが文章の内容にもっと着目できるように、手だてを講じる必要があると考える。

参考文献

日本国語教育学会『豊かな言語活動が拓く国語科単元学習の創造Ⅱ低学年編』東洋館出版、2010年
青木伸生『「フレームリーディング」でつくる「国語」の授業』東洋館出版、2013年